

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成23年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成23年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 23 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 144 企業

2. 調査対象期間

平成 23 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 23 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 1
建 設 業	2 4
小 売 業	4 4
サービス業	4 5
合 計	1 4 4

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 23 年 4 月～6 月)の調査においては、東日本大震災の影響が産業別に跛行性がみられるものの、産業全体の業況D I は、前期より 8.3 ポイント悪化し△47.4 (前期△39.1) となった。

建設業は全国的に資材不足等から低迷しているなか、本県は完成工事額D I が大きく改善し、業況D I は△4.4 (前期△32.0) と 27.6 ポイント改善し、全国値を 29.1 ポイント上回るなど復興需要の影響が窺われた。

小売業は、採算D I については依然として低い水準にあるが、売上額D I は 24.0 ポイント改善し、業況D I は△42.5 (前期△40.0) と 2.5 ポイント減少したものの、全国値を 4.6 ポイント上回った。

サービス業は売上、採算ともに悪化し、業況D I は△67.3 (前期△50.0) と 17.3 ポイント悪化し、全国値を 24.3 ポイント下回った。

製造業は、業況D I は△58.7 (前期△28.1) と 30.6 ポイント悪化し、全国値を 29.3 ポイント下回るなど、水産加工業を中心とする製造設備等被災の影響が窺われた。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事) D I は、建設業においては 24.1 ポイント、小売業が 24.0 ポイント改善し、反面、製造業は 24.2 ポイント、サービス業は 5.7 ポイント悪化し、全産業D I としては△36.4 (前期△40.4) と 4.0 ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D I は、建設業が 18.2 ポイント改善したが、製造業が 20.8 ポイント、小売業が 3.3 ポイント、サービス業は 8.0 ポイント悪化し、全産業D I としては△47.5 (前期△42.5) と 5.0 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業は 16.1%で前回と比較し 0.5 ポイント、サービス業は 17.8%で 9.3 ポイント増加したが、建設業は今期投資が行われず 8.0 ポイント減少し、小売業は 6.8%で前期と同率であった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事）D I は、建設業が全国的に足踏み状況のなか宮城は0.1（前期△24.0）とプラス値となり全国値を26.1ポイント上回り、小売業も物流の再開などにより全国的に回復基調となり、特に宮城は△34.0（前期△58.0）と大きく改善し全国値を10.2ポイント上回った。

反面、製造業はサプライチェーンの修復等により全国的には下げ止まりの傾向がみられるなか、宮城は△36.7（前期△12.5）と悪化し全国値を11.8ポイント下回り、サービス業も宮城は△58.0（前期△52.3）と悪化し全国値を13.9ポイント下回った。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.0	△ 24.9	△ 23.5	△ 29.1	△ 12.5	△ 36.7
建 設 業	△ 25.2	△ 26.0	△ 24.6	△ 30.4	△ 24.0	0.1
小 売 業	△ 46.3	△ 44.2	△ 54.3	△ 47.2	△ 58.0	△ 34.0
サービス業	△ 41.4	△ 44.1	△ 40.0	△ 48.4	△ 52.3	△ 58.0

② 採 算

採算D I は、宮城の建設業が△21.8（前期△40.0）と改善し全国値を18.8ポイント上回り、小売業も△46.4（前期△43.1）と若干悪化したが全国値を0.1ポイント上回った。また、宮城の製造業は△46.5（前期△25.7）、サービス業は△62.3（前期△54.3）と悪化し、全国値よりも製造業が13.5ポイント、サービス業が18.5ポイント下回った。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I 値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 25.8	△ 33.0	△ 28.5	△ 35.8	△ 25.7	△ 46.5
建 設 業	△ 36.6	△ 40.6	△ 41.2	△ 42.5	△ 40.0	△ 21.8
小 売 業	△ 47.5	△ 46.5	△ 55.5	△ 49.1	△ 43.1	△ 46.4
サービス業	△ 42.3	△ 43.8	△ 47.3	△ 46.1	△ 54.3	△ 62.3

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上（完成工事）D I の来期見通しは、今期D I を改善させた建設業が 4.9 ポイント、小売業が 0.9 ポイント悪化すると予測され、今期D I を悪化させた製造業は 2.2 ポイント、サービス業が 9.3 ポイント改善すると予測された。

採算D I の来期見通しについては建設業が 8.7 ポイント悪化すると予測されたが、製造業 5.0 ポイント、小売業 10.1 ポイント、サービス業 1.8 ポイント改善すると予測された。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

産業別来期見通しについては、全国、宮城とも同様の趨勢を示しており、来期における宮城と全国の乖離幅は、各産業ともに微増、微減の動きを示しているが、宮城のサービス業売上D I の来期見通しが 9.3 ポイント改善し、乖離幅が縮小すると予測され、宮城の小売業採算D I も 10.1 ポイント改善が予測され、今期同水準であったD I が来期は宮城が全国を 7.9 ポイント上回ると予測された。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 24.9	△ 22.8	△ 36.7	△ 34.5
建 設 業	△ 26.0	△ 33.7	0.1	△ 4.8
小 売 業	△ 44.2	△ 47.8	△ 34.0	△ 34.9
サービス業	△ 44.1	△ 41.3	△ 58.0	△ 48.7

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 33.0	△ 30.5	△ 46.5	△ 41.5
建 設 業	△ 40.6	△ 40.6	△ 21.8	△ 30.5
小 売 業	△ 46.5	△ 44.2	△ 46.4	△ 36.3
サービス業	△ 43.8	△ 39.6	△ 62.3	△ 60.5

2. 県下産業別の景況

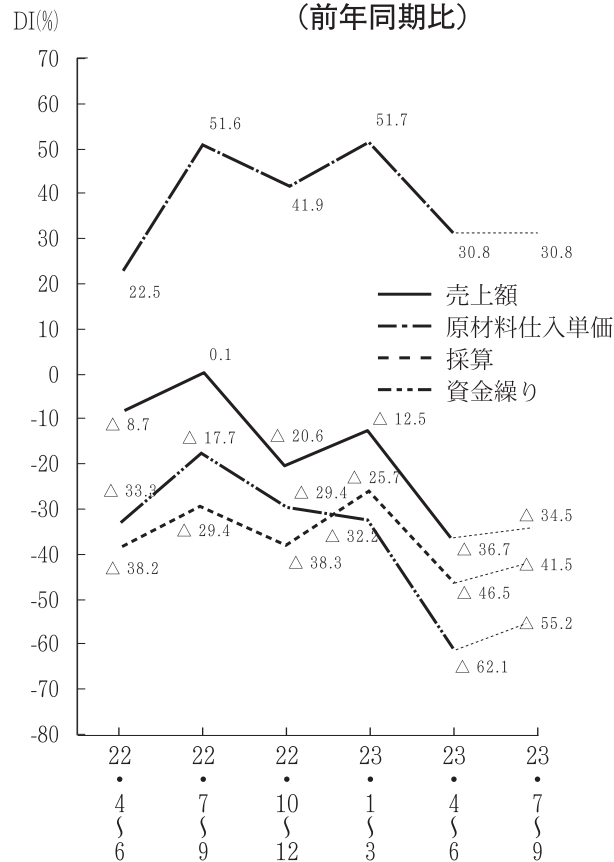
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（加工）額D Iは、今期△36.7（前期△12.5）となり24.2ポイント、採算D Iも△46.5（前期△25.7）と20.8ポイント、資金繰りD Iは△62.1（前期△32.2）と前期比29.9ポイント悪化し、特に資金繰りの厳しさが顕著となった。

反面、原材料仕入単価は30.8（前期51.7）と20.9ポイント下降し材料費の上昇は落ち着き始めた。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



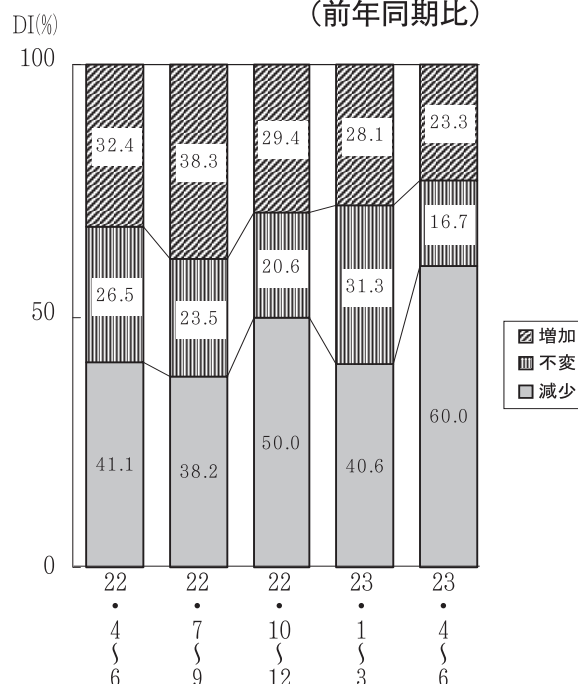
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の23.3%（前期28.1%）で前期比4.8ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は60.0%（前期40.6%）と前期比19.4ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△36.7（前期△12.5）となり前期比24.2ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

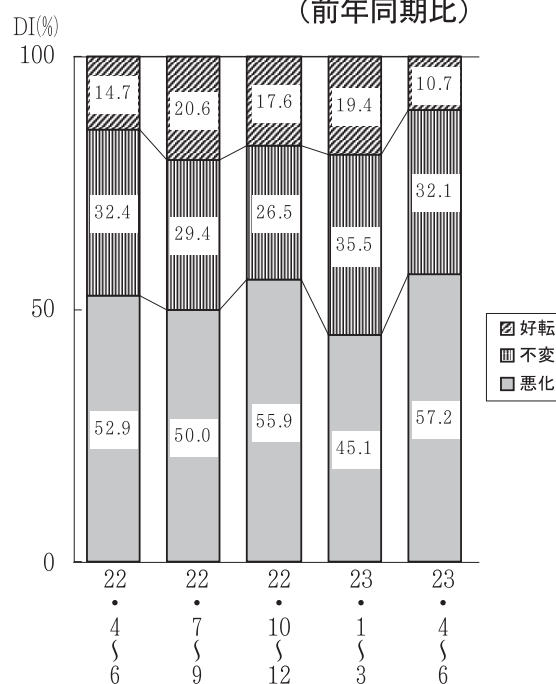


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の10.7%（前回19.4%）で8.7ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は57.2%（前回45.1%）で12.1ポイント増加した。

その結果、採算DIは△46.5（前期△25.7）となり20.8ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



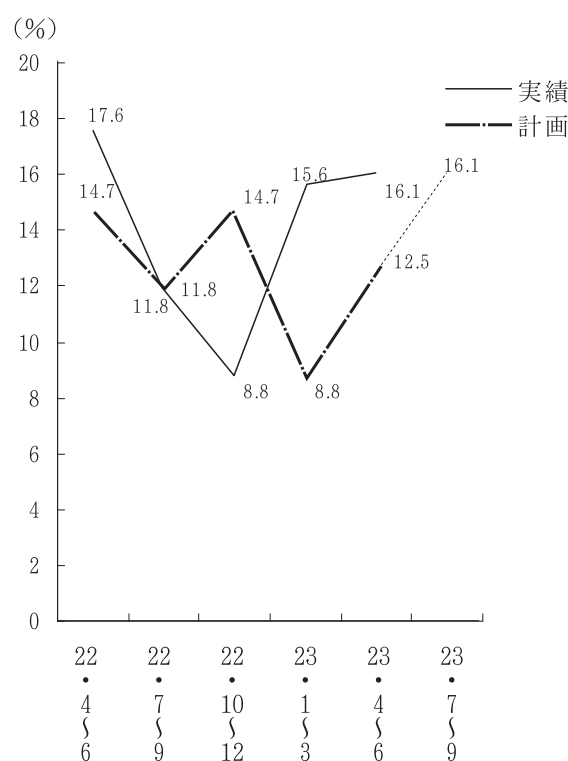
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.1%（前期15.6%）で0.5ポイント増加した。

その設備内容は工場建物、生産設備、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の16.1%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両運搬具、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

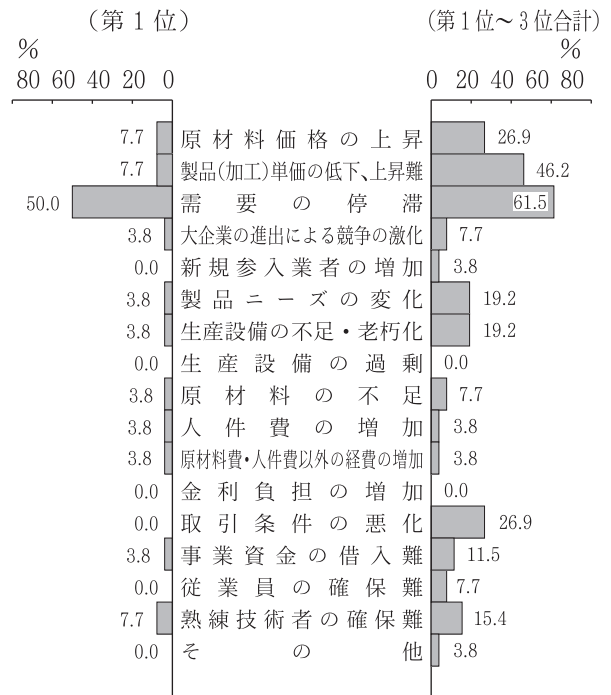


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(50.0%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「原材料価格の上昇」、「熟練技術者の確保難」が7.7%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(61.5%(複数回答以下同じ))、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(46.2%)、そして「原材料価格の上昇」と「取引条件の悪化」が26.9%と同率で続いた。

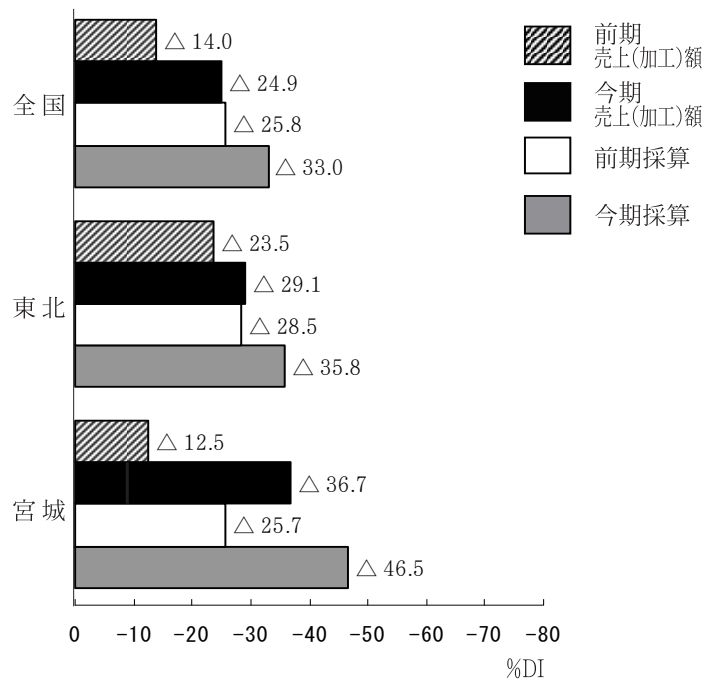
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的に、サプライチェーンの寸断など東日本大震災の影響が残るなか、全国、東北、宮城いずれも売上(加工)額DI、採算DIともに悪化しており、特に宮城のDIの減少幅が大きく、製造設備の被災などからの回復が遅れていることが窺えた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



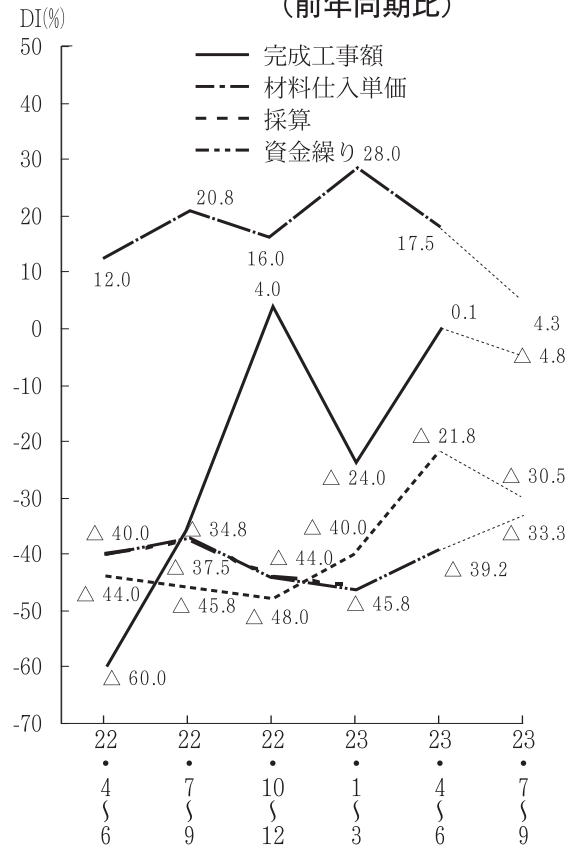
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額DIは0.1（前期△24.0）で24.1ポイント、採算DIも△21.8（前期△40.0）と18.2ポイント改善した。

また、資金繰りDIも△39.2（前期△45.8）と6.6ポイント改善し、材料仕入単価DIも資材不足が大きな問題として取り上げられるなか17.5（前期28.0）と10.5ポイント下降しており、回復基調を示している。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



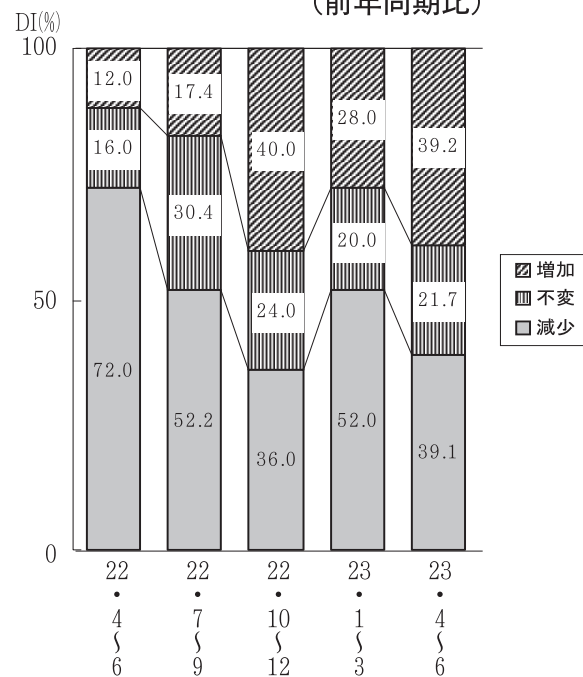
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の39.2%（前期28.0%）であり、11.2ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は39.1%（前期52.0%）と12.9ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額DIは0.1（前期△24.0）と24.1ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

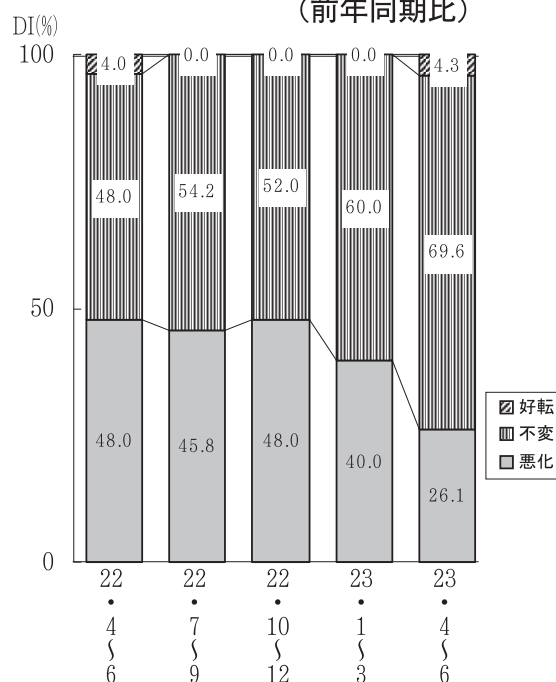


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.3%(前期0%)であり4.3ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の26.1%(前回40.0%)であり、13.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは△21.8(前期△40.0)となり、前期比18.2ポイント改善した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)

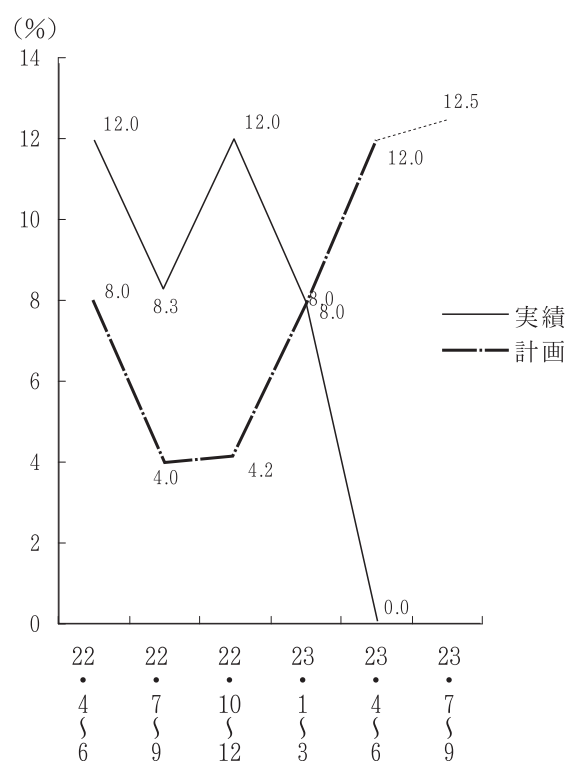


(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業はなく(前期8.0%)で8.0ポイント減少した。

来期に設備計画をしている企業は、全体の12.5%であり、その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、福利厚生施設を計画している。

図2-4 設備投資の状況

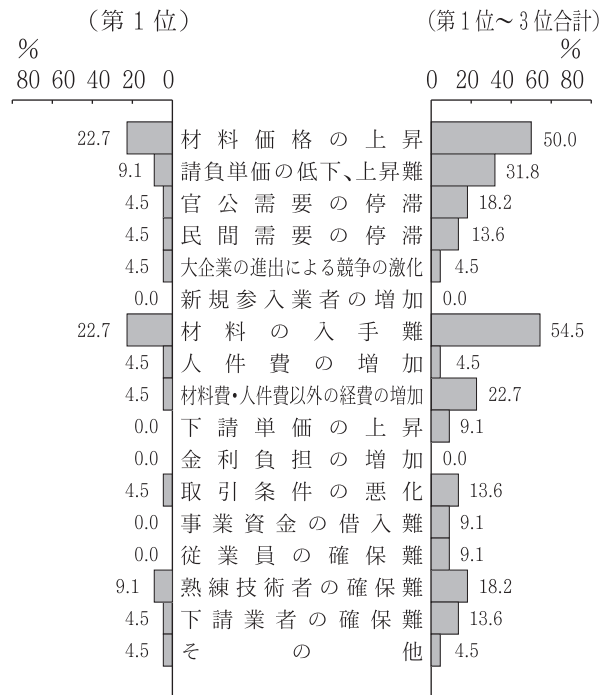


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料の入手難」と「材料価格の上昇」が同率の22.7%となり、次いで「請負単価の低下、上昇難」と「熟練技術者の確保難」が9.1%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料の入手難」(54.5% (複数回答以下同じ))、「材料価格の上昇」(50.0%)、「請負単価の低下、上昇難」(31.8%)、「材料費・人件費以外の経費の増加」(22.7%)と続いた。

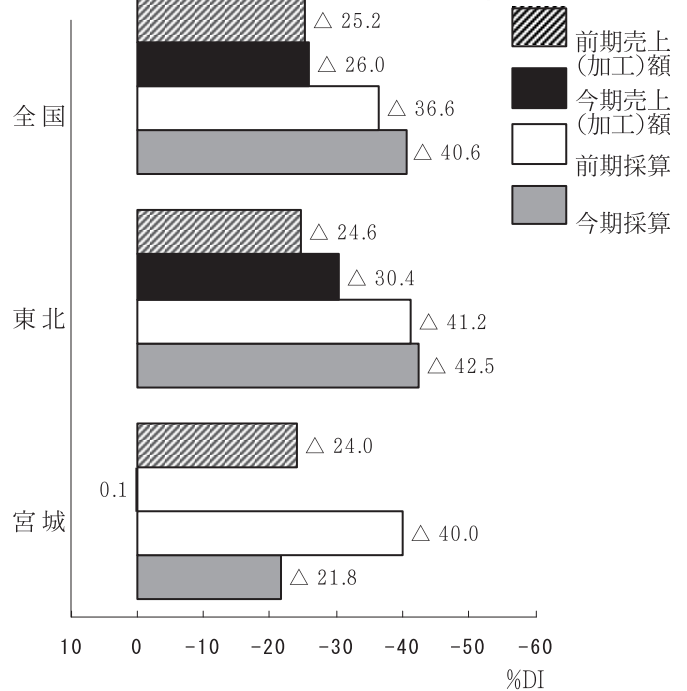
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国・東北が完成工事(請負工事)額D I、採算D Iともに前期比が悪化するなか、宮城は復興需要により材料の入手難に悩みながらも完成工事(請負工事)額D I 0.1 (前期△24.0)、採算D I △21.8 (前期△40.0)と大きく改善させた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



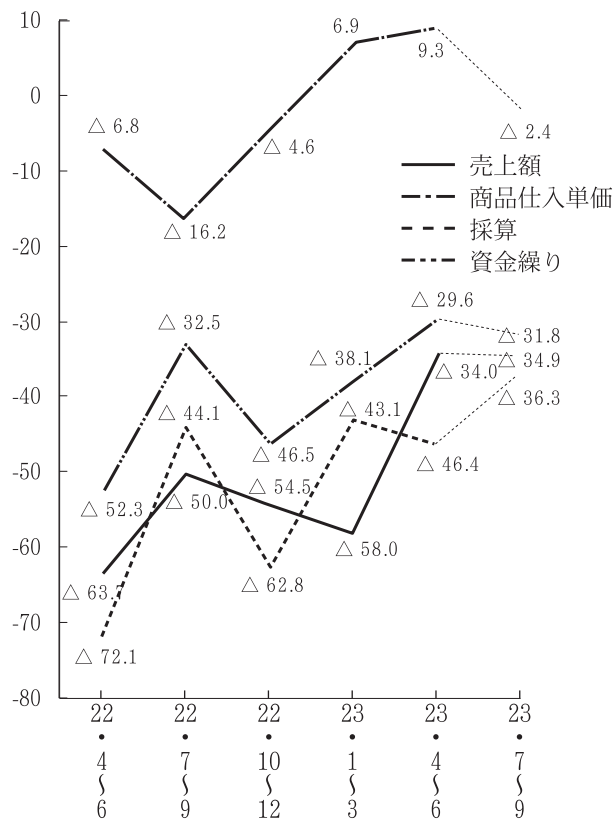
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

宮城の小売業は、売上額D Iは△34.0（前期△58.0）で24.0ポイント改善し、資金繰りD Iも△29.6（前期△38.1）と8.5ポイント改善した。

しかしながら、商品仕入単価D Iは9.3（前期6.9）で2.4ポイント上昇し仕入単価の上昇傾向が続いており、採算D Iも△46.4（前期△43.1）で3.3ポイント悪化した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



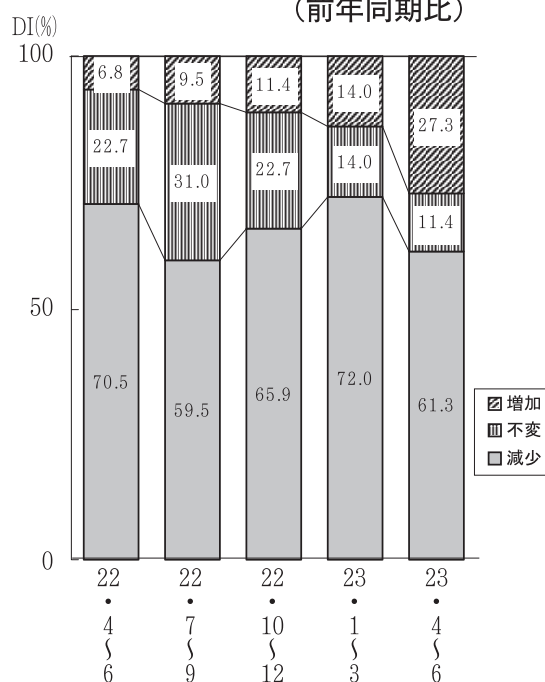
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の27.3%（前期14.0%）と13.3ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の61.3%（前期72.0%）と10.7ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△34.0（前期△58.0）と前期比24.0ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

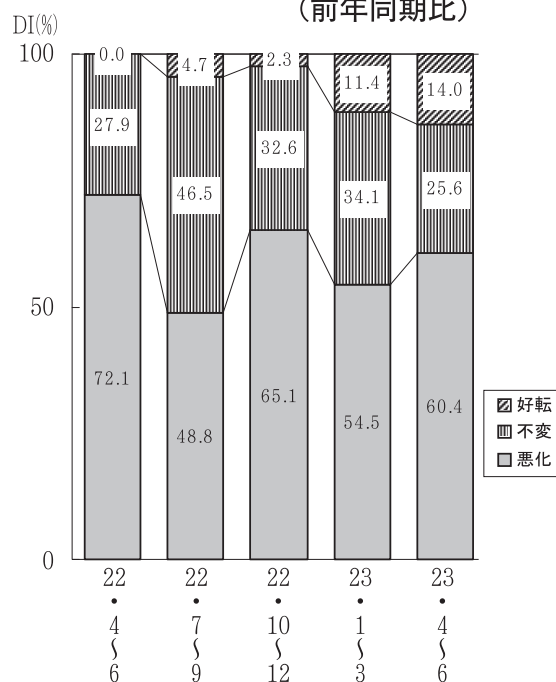


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.0%（前期11.4%）と2.6ポイント増加し、「悪化・低下」の回答も全体の60.4%（前期△54.5%）で5.9ポイント増加した。

その結果、採算D Iは、△46.4（前期△43.1）となり、前期比3.3ポイント悪化し全国D I △46.5を0.1ポイント上回った。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)

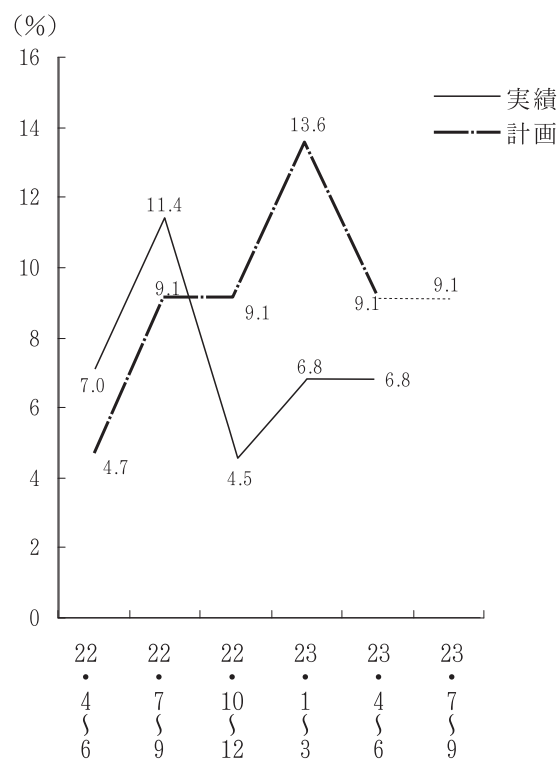


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、前期と変わらず全体の6.8%であり、その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具、付帯設備であった。

来期に設備計画している企業は9.1%で、その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具を想定している。

図 3 - 4 設備投資の状況

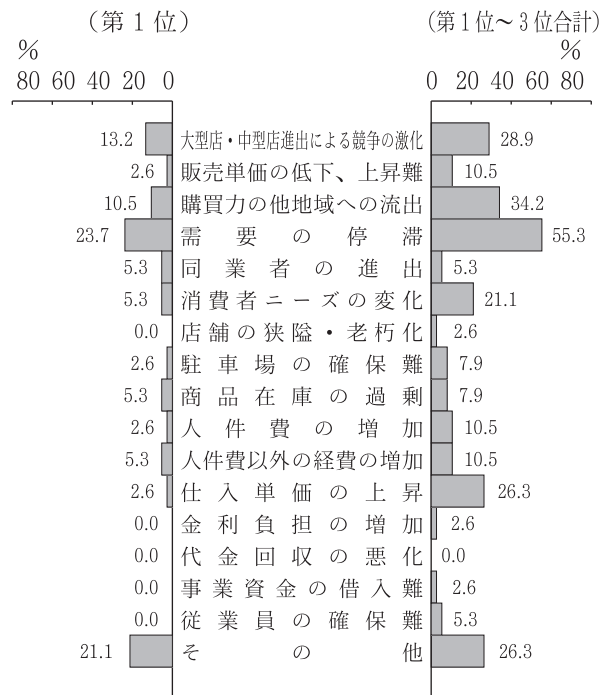


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(23.7%)、次いで「その他」(21.1%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(13.2%)、「購買力の他地域への流出」(10.5%)、と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(55.3% (複数回答以下同じ))、次いで「購買力の他地域への流出」(34.2%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(28.9%)、「仕入単価の上昇」と「その他」が同率の26.3%と続いた。

図3-5 経営上の問題点

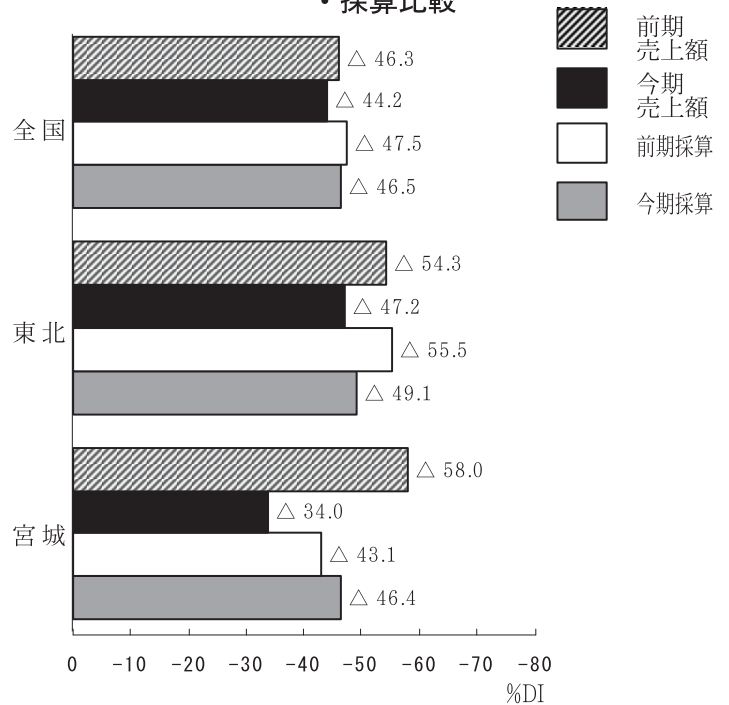


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城全て改善傾向となったが、特に宮城の改善幅が大きく全国を10.2ポイント上回った。

採算DIについては、全国、東北は改善し、宮城は若干悪化し△46.4となったが、結果として全国よりも0.1ポイント、東北を2.7ポイント上回った。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



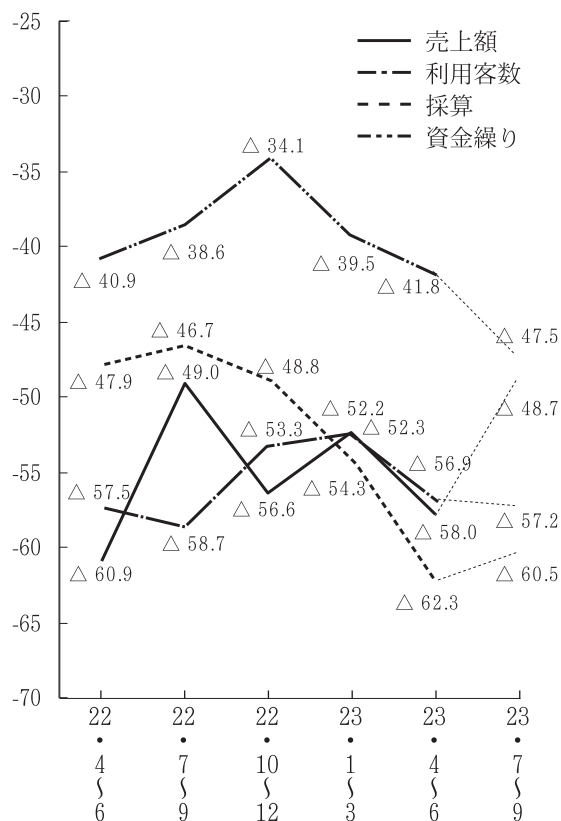
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iが△58.0(前期△52.3)で5.7ポイント悪化し、利用客数D Iも△56.9(前期△52.2)で4.7ポイント悪化した。

また、資金繰りD Iも△41.8(前期△39.5)と2.3ポイント悪化し、採算D Iも△62.3(前期△54.3)と8.0ポイント悪化させ、宮城は全ての主要景況項目が依然として低迷を続けており、厳しい状況下にある。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



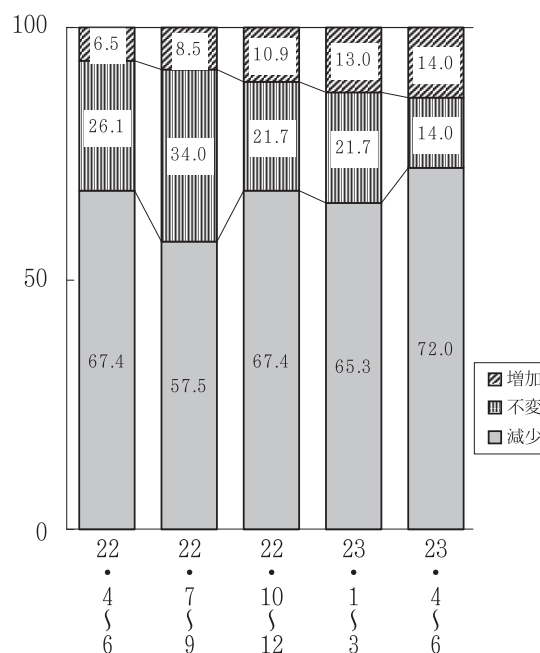
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.0%(前回13.0%)で1.0ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は72.0%(前回65.3%)で、6.7ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは△58.0(前回△52.3)で前期比5.7ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

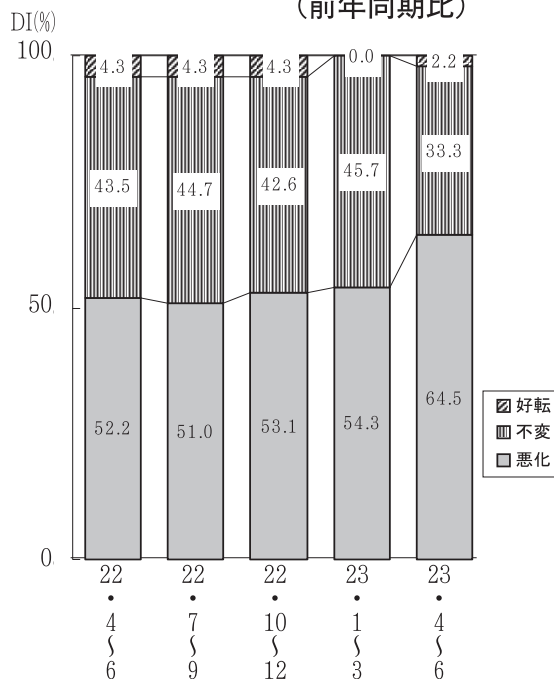


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の2.2%(前回0.0%)で2.2ポイント増加し、「低下・悪化」と回答した企業は64.5%(前回54.3%)と、10.2ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△62.3(前回△54.3)となり、前期比8.0ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



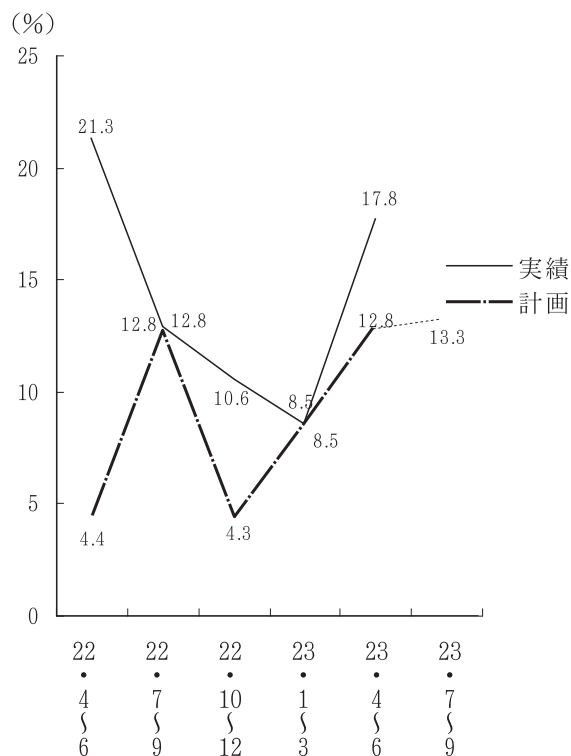
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の17.8%(前期8.5%)で9.3ポイント増加した。

その設備内容は、建物、車両運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、13.3%であり、その内容も、建物、サービス、車両運搬具、付帯設備、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

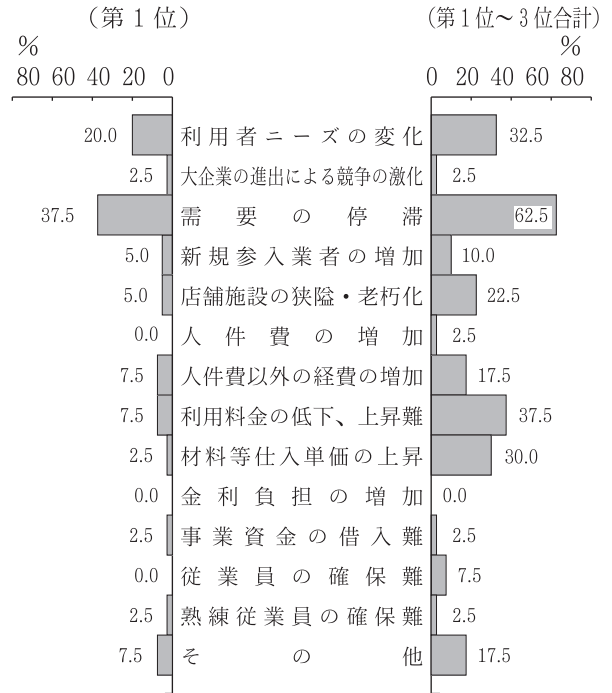


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(37.5%)
次いで「利用者ニーズの変化」(20.0%)、
「利用料金の低下、上昇難」、「人件費以外
の経費の増加」、「その他」が7.5%と同率で
続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要
の停滞」(62.5%(複数回答以下同じ)) 次い
で、「利用料金の低下・上昇難」(37.5%)、
「利用者ニーズの変化」(32.5%)、「材料等
仕入単価の上昇」(30.0%)、「店舗施設の狭
隘・老朽化」(22.5%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点

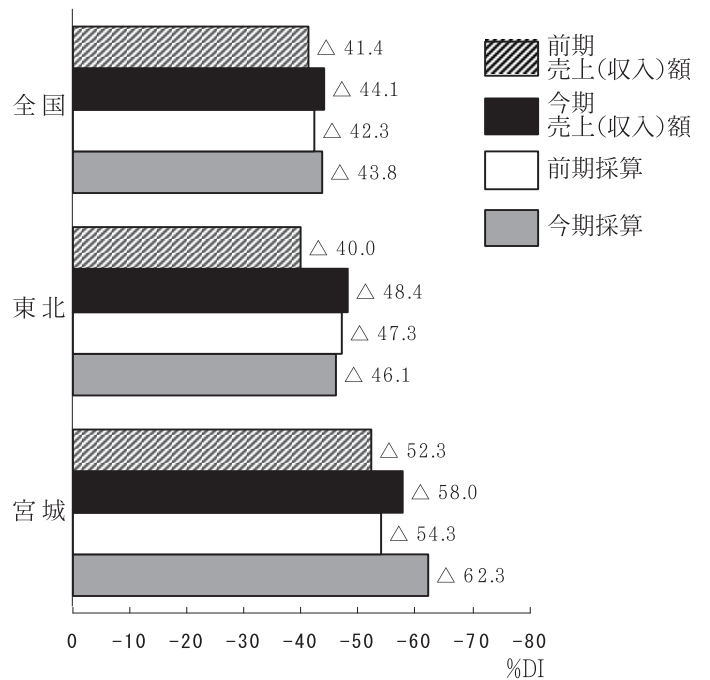


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城はいずれも悪化し、宮城を全国と比較すると13.9ポイント下回っており、前回と比較して乖離幅が3.0ポイント拡大した。

採算DIは、東北は若干改善したが、全国、宮城が悪化し、特に宮城は大きく悪化し、全国と比較すると18.5ポイント下回り、前回よりも乖離幅が6.5ポイント拡大した。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています